



試験成績書

平成16年 6 月 3 日
依頼番号 依16-12

株式会社 タナカ 殿

財団法人 日本住宅・木材技術センター
理事長 岡崎 勝男



ご依頼の試験結果はつぎのとおりです。

1. 試験依頼者の名称 及び住所	株式会社 タナカ 茨城県新治郡新治村大畑702-1
2. 件名	大引き受け金物 105(釘タイプ)のせん断耐力試験
3. 試験概要	[1] 目的 性能認定の技術資料 [2] 試験体 1) 接合部位：土台-大引き 2) 金物名称：大引き受け金物 105(釘タイプ) 3) 接合具：スクリューくぎ ZS50 土台-6本、大引き-4本 4) 木材：土台、大引き-スギ製材 105mm 角 5) 試験体数：6体 [3] 載荷方法 圧縮型せん断載荷
4. 試験結果	別紙に示すとおり。(全14頁)
5. 試験実施場所	東京都江東区新砂3丁目4番2号 財団法人 日本住宅・木材技術センター 試験研究所
6. 試験受付日	平成16年 4月 1日
7. 試験実施日	平成16年 4月 21日
8. 試験担当者及び 試験成績書作成者	研究員 清水 庸介 主任研究員 駕海 四郎 技術主任 後藤 隆洋

この試験成績書を転載するときは、必ず全文を記載してください。

5. 短期基準耐力の算定

(1) 包絡線の作製と特性値の算定

包絡線は荷重-変位曲線より作製し、図5. 1～図5. 6に示す。この包絡線から完全弾塑性モデルにより降伏耐力 P_y 等の特性値を算定し、表5. 1に示す。表中の数値は試験体1体あたりである。

(2) 短期基準耐力は、下記の方法により算定する。

下記の①、②の試験荷重の平均値にばらつき係数を乗じ、5%下限値を求め、値の小さい方を短期基準耐力とする。

①降伏耐力 P_y

②最大耐力 P_{max} の $2/3$ の値

(3) ばらつき係数は下式による。

$$\text{ばらつき係数} = 1 - CV \cdot K$$

ここで、 CV ；変動係数

K ；信頼水準75%の95%下側許容限界を求めるための定数
(試験体数に依存し6体は $K=2.336$)

(4) 金物1個あたりの算定した短期基準耐力は、表5. 2に示す。

表5. 2：大引き受け金物105(釘タイプ)の算定した短期基準耐力（金物1個）

試験体記号	接合部位	载荷方法	短期基準耐力(kN)
SON10	土台-大引き	引張	7.5

注) 短期基準耐力と短期許容耐力について

・短期基準耐力：試験結果よりルールに基づき算定された耐力

・短期許容耐力：短期基準耐力に工学的判断による係数を乗じた耐力

(工学的判断；例えば、試験条件、破壊状況、耐久的措置、施工性等を勘案した係数)

その為、試験成績書に記載された短期基準耐力と認定書に記載される短期許容耐力は、数値が異なる場合があります。